



### 雅な伝統行事

お上り・お下りでは、町指定民俗文化財の獅子舞をはじめ、巫女の華麗な舞い、荘厳な御輿行列などが行われます。祭りの核となる伝統行事です。



### 初の稚児行列

寺社の祝賀行事の一環として行われる稚児行列。その催しが今回初の取り組みで稲荷神社神幸祭と融合しました。児童・幼児が天平扇や金冠をつけ、装束を身にまとい、お上り・お下りでは美しい行列ができました。



### 平原山笠

威風堂々の風格が漂う平原山笠。表は『賤ヶ岳の合戦』。法被は薄紫、白地に黒の柄が施されています。



### 六区山笠

降り積もる雪が個性と特色を際立たせる六区の山笠。表の場面は『大坂冬の陣』。法被は燃えるような赤。



### 宝見区山笠

度肝を抜く白龍は泣く子も黙る大迫力。地域手作りでオリジナルの場面を演出しました。法被は橙色。



### 町部山笠

龍と虎がせり出し、躍動感あふれる町部山笠。配色も鮮明です。表の場面は『風林火山』。法被は水色。



### 上金田山笠

大きな開きが特徴の上金田山笠。金色の装飾がきらめきます。表の場面は『天下幻想』。法被は紫色。



### 一区山笠

金田一区の山笠は大天狗が中央でにらみをきかせます。山笠表の場面は『鞍馬山物語』。法被は桃色。

お祭り気分、という言葉があるように、頭を垂れた稲穂が揺れ、あの囃子が聞こえるとき、いつしか地域全体が高揚感に包まれます。心を解き放ち、にぎやかに過す日々は、年に一度の貴重な機会。10月20日・21日の2日間、地域が待ちに待った金田稲荷神社神幸祭が行われました。

各地域で出発の儀式を済ませた6基の山笠は、山小屋を発ち、金田稲荷神社の鳥居前に集結。刀や槍を振るう武者人形が身を乗り出し、それぞれのイメージカラーと調和した山笠が金色に輝き、ここにそろいました。勇壮な山笠が見守るなか、境内では厳かに神事がとり行われました。

今年、初の試みで話題になったのが、可愛らしい、稚児行列。6歳以下のおよそ20人の子どもたちが、華やかな装束を身にまとい、お上り・お下りで御輿の行列に華を添えます。神事やしきたりなどの伝統行事を大切にしながら、祭り本来の姿を失わずに進化する金田稲荷神社神幸祭。その雰囲気にかきかかれ、多くの人が、祭りの活況を心に焼き付けました。

# 金色の揃い踏み

山笠六基、鳥居前で整然と。【金田稲荷神社神幸祭フォトレポート】